

課題名	単収向上を核とした県北アスパラガス産地の再生	振興局名	県北振興局
活動対象	JAながさき西海 アスパラガス連絡協議会	実施期間	平成28年4月 ～平成29年3月
<p>【対象の概要】</p> <p>佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町のアスパラガス生産者で構成される部会の連絡協議会（させば、宇久、北松、平戸、松浦、小値賀の各部会）。農家戸数139戸（認定農業者57経営体）。アスパラガスの栽培面積は22.16ha。</p> <p>【課題設定の背景】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 該組織の平成27年産栽培面積は22.16haであり、3年連続の減少となっている。また、10a当り平均単収は1,550kgである。単収が3,000kg/10aを超える農家は全体の6%しかいないのに対し、産地平均単収を下回る単収農家が全体の48%存在し、生産意欲低下による産地の活力が減退してきている。対象からは、振興局、JAに対して「単収向上」対策の要望が強い。 2. 平成27年度にJR九州ファームがアスパラガス栽培を開始し、本年度も規模拡大を計画している。新規参入者であるため技術対策は必須であるとともに、収支計画も平均単収3,000kg/10aと高い目標を掲げており、継続した事業活用支援、技術支援が求められている。 <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県北産地の維持、発展のために産地全体の48%を占める低単収農家の底上げが必要であるが、高齢等により収量改善の意向を示さない農家へのアプローチは前の5ヵ年計画において期待できないことがわかった。そこで、本年度はステップアップを志向する農家、認定新規就農者等一定の目標達成が必要な農家を重点的に支援し、平均単収向上を図る。 2. アスパラガスを経営の基幹作物とする経営体の育成を支援し、早期の目標達成を実証して県北産地再生の起爆剤とする。 <p>【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】</p>			
<p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重点農家を活用した収量向上対策支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「JAながさき西海アスパラガス生産振興大会」（2/3）において、高単収農家の3戸をパネラーとしてパネルディスカッションを行い、高単収のポイントを他生産者に示す研修の機会をもつことができた。 (2) JAと連携した増収チーム会の立ち上げ、県アスパラガスプロジェクトチーム会等の活動により技術者段階での今後の方向性の意識統一を図ることを中心に活動した。 (3) 単収改善重点農家については、現地検討会+αの活動により各自の問題点を認識してもらい、単収向上に向けた改善点を見出すことを目的として支援を行ったが、思うような成果に結びつかなかった。 (4) JR九州ファーム（株）の出荷増（松浦）および選果体制の強化（平戸）を図るため、JAの選果機導入（産地パワーアップ事業活用）の支援を行った。 (5) 産地の特徴的な経過 <ol style="list-style-type: none"> ①松浦地区＝点滴灌水施設（目的：単収向上、病害発生抑制、灌水・追肥作業の省力化）の導入（産地パワーアップ事業活用）支援を行った。若手生産者等（重点指導農家を含む）を対象に担い手研修会を3回（7/19、9/21、11/21）開催した。対象者実人数12名、延べ30名の参加があり栽培技術の向上及び生産者同士の情報交換が活発に行われた。 ②離島地区＝急激に栽培者数が減少した1年だった（12戸→8戸）ハウス+栽培株の継承者を見つけきれない 2. 規模拡大志向経営体への事業活用及び技術向上支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種補助事業を活用したAPハウス計1.65haの建設の進捗管理を支援した。 (2) 栽培管理スケジュール作成と労力試算を行い今後の計画協議を地元指導農家および関係機関と連携して行った。 (3) H28産では収穫開始時期の遅延（労力不足による親茎の更新遅れ）、病虫害（ヨトウムシ、褐斑病）の蔓延（初期防除薬剤の選択ミス、適期防除不履行）による樹勢低下などにより、目標単収を大きく下回った。 			